ガーナでそろばんプロジェクト 110 号（2023 年 7 月 31 日）

★★　これが誰も取り残さない授業　★★

九月までの短い三学期が始まりました。前学期果たせなかった5年生の算数の授業を行ないました。算数に苦手意識を持っている子どもも楽しめる授業を考えました。6年生と同じように数カードを使った授業です。6年生の時はチームで指定された番号を作るものでしたが、5年生では全員にそれぞれ数カードを配り、指定された番号を作るものです。自分の持っている数カードを使うのか？ヒヤリング力も問われます。一万の位まである数は5枚カードを使う必要があり、ty ティと teen ティーンの違いをしっかりと聞き取らなくてはなりません。子ども自身の注意力も必要ですが、目指す授業は「全員が参加、みんなが前に出てきて主役になれる授業」です。そのため、各カードを持った子どもが必ず一回は前に来れるように出題する必要があります。0から8を持った子どもがそれぞれ二人、9のカードを持った子どもが一人で、一回の出題につき5人が前に出れるようにと私自身も頭を駆使しながら楽しんで出題をしました。5桁の数字の中に0が2つ入る数、ティとティーンの聞き分けをしないといけない数字、出題はとても楽しいものです。ついつい私自身の笑い声が大きくなってしまいます。子どもたちは5人出てくるはずなのに7人であったり、3人しかいなかったりと子ども間で「そこ違うよ。5が入るだよ。」「ゼロ、ゼロ、ゼロが入るんだよ。」と盛り上がります。誰一人として不安な表情をしている子どもはいません。いつ自分の番号が呼ばれるか分からないので、前に並んだ数字を見ながら自分の持っている数カードを確かめます。実に楽しそうなのです。これなんだな。これなんだよ。誰も取り残さないという事は。子どもから教わりました。そして、やっぱりそろばんの授業につなげたい。そう思いました。5桁の数字を作るのを行った後は、五人が前に出て、一人2枚のカードを手に持ち「赤あげて白あげて、赤さげないで白さげる」のゲームを数カードでしました。そろばんを授業に取り入れると、みんなを同じレベルで教えるのは難しくなります。そろばんの計算を理解出来る子どもは楽しくなり計算力もめきめきと伸びます。しかし、理解できないでいる子はまた心ここに有らずで同じ空間にいるのにフェードアウトしてしまいます。迎える9月の新年度の新学期、どのように算数とそろばんを行なっていくかじっくりと考えていきたいと思います。

報告　TOSHIKO

子どもの学びのサポートに心より感謝いたします。

協賛　トモエそろばん様